

神奈川県立岩戸養護学校 令和2年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から教育課程の統一と見直しを図り、生徒が主体的に取り組む授業作りを行う。	生徒一人ひとりの障害の状況や発達の段階を的確に踏まえ、新たな教育課程に則った指導・支援を行う。	(1)新たな教育課程に則り、生徒の実態にあった授業計画を作成する。	(1)校内研究や研究授業後の研修会等を活用しながら、一人ひとりの生徒の実態にあった授業計画を作成できたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	生徒一人ひとりの人権に配慮し、個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を計画的、組織的に行う。	チームで多面的に実態を把握し、生徒一人ひとりのニーズに応えた生徒指導・支援を行う。	(1)さまざまな校内資源を有効に活用し、個々の生徒に応じた適切な個別の支援計画を作成する。 (2)いじめ防止等対策マニュアルに基づき、授業や研修を通していじめの未然防止、早期発見、早期解決に努め、生徒、保護者からの相談に対応する。	(1)ケース会や面談、研修等において、専門職、養護教諭、栄養士、進路担当、支援担当等の校内資源を有効に活用することができたか。 (2)いじめ防止をテーマとした授業モデルについて、校内に向けて関連資料を提供し、相談に対応することができたか。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら選択、決定できる進路指導・支援を行う	自立と社会参加に向け社会人として必要な力を育成し、進路指導・支援の充実を図る。	(1)体験や実習を重視し、個々の生徒に応じた社会人として必要な力を育成する。 (2)個々の実態に即した進路指導・支援を通し、本人の適正に応じた進路選択につなげる。	(1)体験や実習を重視した学習を通して、社会人として必要な力を育成することができたか。 (2)生徒に自ら自分に適した進路選択・決定をさせることができたか。
4	地域等との協働	インクルーシブ教育の推進を図るために、校内教職員・保護者・地域の理解促進、地域の諸学校、諸機関への発信、貢献活動を行う。	インクルーシブ教育の推進を図るために、地域等との協働により教育活動の充実を図る。	(1)学校HPや学校だより、学校行事への地域の方々の参加等を活用して地域の方々に本校の活動を広報し、理解を広げる。 (2)センター的機能を発揮し、巡回相談や諸会議への参加を通して、地域の諸学校と連携し、協働していく。	(1)定期的な学校HPへの支援だよりの掲載、地域への学校だよりの配布、学校行事への地域の方々の参加等を通し、本校の活動について地域の理解を進めることができたか。 (2)ニーズに応じ、地域の中学校、高等学校への巡回相談、および、諸会議へ参加することができたか。
5	学校管理 学校運営	学校運営の組織的な体制と安全・安心な学校作りのための体制の構築を図る。	地域や家庭を含めた防災体制と防災教育の充実を図る。	(1)生徒の自然災害や感染症等に対する防災意識を高めるとともに、災害発生時に備え家庭・学校間での連絡手段の充実を図る。 (2)災害発生時の地域への対応として、初動対応と二次福祉避難所等についての体制づくりを進める。	(1)防災を意識した日々の指導を通じ、学校内外で生徒の防災意識が高まったか。また、災害発生時の連絡手段を拡充することができたか。 (2)災害発生時の初動対応、二次福祉避難所について具体的な体制づくりができたか。